

と しょ かん 宇 治

No. 41

1998年10月25日発行

宇治市中央図書館
〒611 宇治市折居台1-1
-0023 0774 (20) 1511

宇治市東宇治図書館
〒611 宇治市五ヶ庄三番割36-5
-0011 0774 (32) 2232

宇治市西宇治図書館
〒611 宇治市小倉町山際63-1
-0042 西小倉地域福祉センター3階
0774 (22) 8240



楽しく宇治市史を学んでいるみなさん

私と図書館

— 発足のころを回顧して —

京都府文化財保護指導委員

若原 英 式

昭和四十年（一九六五）十月一日、新築成ったばかりの市民会館（現在の宇治公民館）に、いち速く図書閲覧施設が設けられ、市民図書室の名でオープンした。宇治市における図書館の誕生である。ちなみに、市民会館の完成式は十月十二日に挙行されている。

その書架に並ぶ蔵書はまだまだ数少なく、ささやかな施設であったことは言うまでもない。しかし、関係職員の熱意によって、その図書室は次第に充実していった。私たちが関心を寄せた宇治の歴史や文化に関連する書籍も、優先的に購入されて利便が増した。

昭和四十三年になって、永く等閑（なおざり）にされていた宇治の古文書を学ぼうと、「浜千鳥研究会」が発足したときも、昭和四十八年十月から、既に刊行されていた『宇治市史』第一巻を、市民に理解していただくという目的で「宇治市史を学ぶ会」が始められたときも、参考図書利用の便をはかって、図書室そのものを例会の場所に提供された。

その『宇治市史』全六巻と『年表』の編纂過程においても、各種の蔵書を市史編纂室へ長期間借り出して、逐一目を通して事象の確認や、文章の校合、資料カードへの抽出などを続けた。当時、この市民図書室から受けた恩恵の大きさは、宇治の地域史研究の素地が不十分だったという状況とともに、いまさらのように想い出される。

周知のように、ささやかだった図書室が、いまでは大きな図書館に姿を変えている。その成長のなかで、「浜千鳥研究会」は三十周年、「宇治市史を学ぶ会」は二十五周年を迎えた。いずれも市民が楽しくつとめ学べるサークルとして生き続けている。

図書館の仕事

「選書」

PART I

図書館の書架にはいろいろな本があります。どうやってそれらを選んでいるのだろうか、とみなさん思われていることと思います。

各分野の基本書は図書館開設の時に、充分検討して揃えますが、目まぐるしく変化する社会に対応できる新しい情報の図書を適宜、加えていく必要があります。同時に、古い役に立たなくなった内容の図書を除くことも大切です。

話題の本は選書するよりも早く、利用者の方からリクエストされて発注する場合があります。多くは国内外のベストセラー小説です。リクエストに応える事で書架に新鮮さが増します。

一方、時代を超えた定番の本、読み継がれてきた古典や名著といったものを所蔵しているというのも図書館の大切な役割だと思っております。

いろいろな分野の調査、研究に役立てていただくための参考図書(事典・図鑑など)も図書館ならではのの本だと思います。置き場所をとる美術書や全集なども、予算

と相談しながら、良いものを購入するよう努力しています。

年間六万五千冊以上の新刊が出版されている中での選書は、大変な作業です。しかし、その一冊一冊が図書館を構成する命です。いかげんにはできません。大部分は『新刊全点案内』という選書資料を使って、購入する本を決定します。直接書店に出向いて、現物を見て決める場合もあります。この作業はスタッフ全員で取り組んでいます。

常に新しい情報へのアンテナを研ぎ澄まし、カウンターでの利用者の方とのやりとりから、細かな要求をくみ取るという日頃の努力がとても重要です。

なに分にも、限られた予算なので購入できないものもあります。例えば、あまりに高価な芸術書や専門書は買うことができません。その他、宇治市の図書館の方針として購入しない本があります。基本的な人権を損なう内容の本やポルノなどがそれにあたります。

このようにして選ばれた図書が書架に並ぶのです。みなさんの役に立ち、知的要求を充たし、暮らしを潤おうような図書館でありたいと願っています。



さんぽみち

旅と本



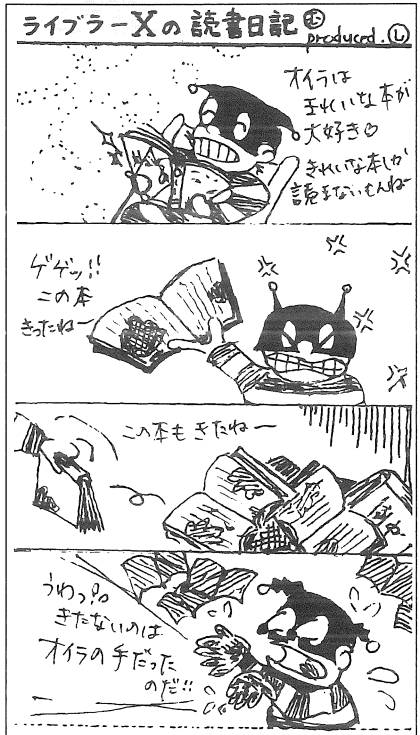
外国のスケールの大きな写真や旅の本を見てみると、その場に、自分を置いてみたいなんて思うことがある。その気持ち

をためておいて、値段の安いツアーをみつけて行くことにしている。本で見た写真と同じ場所に立った時は、もう感激いっぱい!!カメラでパチパチ。一本のフィルムはあつと言う間。でも出来上がった写真からは、その時の感動が伝わって来ない。やっぱり、自分の眼に、心に焼きつけなきゃと思う。

昨年、インド独立五十周年記念ツアーで、一度は行きたいと思っ

ていたインドへ。世界一美しい建物タージ・マハルの前に立ち、大理石に触れた感触。車、人、動物がひしめき合う街中で、何故かなつかしいと思い、非暴力主義者ガンジーの遺体が焼かれたラージ・ガートにたどり着いた時、ここ迄来れた……と感慨深いものがあった。

そして、旅のお伴にはやっぱり旅行ガイドと文庫本。ですが、ひとり本を読むのは気がひけ、読まずに帰るのが常。今回は本好きの友人と一緒に。機内では「本を読むことができた。さあ!次は何処へ。友人と、あれこれ思いを暖めてくれる昨今です。



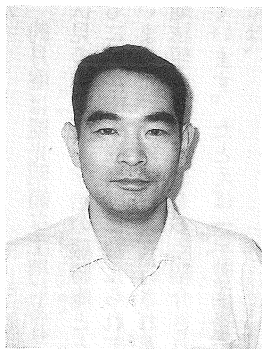
きれいな手で本を読みましょう

図書館へようこそ

利用者にインタビュー

第27回

木 俣 肇 さん



東宇治図書館をよく利用していただいているユニチカ中央病院、小児科部長の木俣肇さん(四十五才)にお話をお聞きしました。

☆いつ頃から図書館を利用されていますか。

東宇治図書館は通勤途上にあるので、二年ぐらい前から週に一回ぐらい利用しています。

☆どんな本が好きですか。

推理小説が好きです。また、今は司馬遼太郎の本をよく読みます。今までに感動した本は、森村誠一の「人間の証明」、芦原すなおの「青春デンデケデケデケ」、篠田節

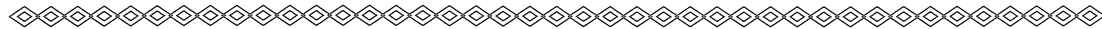
子の「女たちのジハード」などいろいろなトラブルを克服しながら生きていく主人公の生きざまが、自分にとって参考になりますね。☆読む本はどのように選びますか。新聞の書評や広告を見て選んでいます。また、一冊の本を読んで同じ著者の他のシリーズを読んでもりもします。

☆読書以外の趣味は何ですか。

昨年からは、東宇治コミセンのマジックサークルに入ってマジックを少しやっています。いろんな人とコミュニケーションがはかれて楽しいですね。それから、映画やビデオを見たり、文章を書くことも好きですね。

☆図書館に対して、感想・要望があればどうぞ。

図書館の親切なサービスには、いつも感謝しています。図書館を利用したことのない人もいると思いますが、もっと利用したらいいと思いますよ。要望としては、図書館の開館は午後五時までですが、働いている人も来られるようにできれば夕方六時頃まで開けてほしいですね。また、ファックスで予約ができればいいと思いますが……。☆ありがとうございました。これからも大いに図書館を利用して下さい。



おまちして います

お し ら せ

本と子育て講座

子どもと本の楽しい出会いは、想像の世界に胸をときめかせ豊かな心を育みます。子どもは本が大好きです。子どもと本の出会いについて勉強してみませんか？

講 師 大阪国際児童文学館選書委員 北 畑 博 子 さん

日 程 12月3日(木) 12月10日(木)

時 間 10時～12時

場 所 中央図書館集会室

詳細は市政だよりでお知らせします。

☆12月には、各館でクリスマス会があります。おたのしみに!!

東宇治図書館では、八月十八日、「考 えよう! ゴミ とリサイクル、牛乳パックでおもしろ工作」を開催しました。参加者は小学二年生以上の子供と親の約九十名。最初に城南衛生管理組合・芦原広報課長から、ゴミを減らすことが地球を守ることに繋がることがや牛乳パックをリサイクルすることでのくらの木を切らないですむか、などゴミとリサイクルについての具体的な話をわかりやすく説明していただきました。その話を踏まえた上で工作に移り、牛乳パックを使ってブーメラン、鶴や八角の



小箱を作っていました。最初は不安そうだった子供たちもお母さんを手伝ってもらって形が整い、最後に千代紙を貼ってきれいな小箱が出来上がり。参加者からは「こんな催しをまたやってほしい」等の声が寄せられました。

郷土のはなし

釣月庵

宇治市の北部に位置する横島町は、近年、宅地開発や京滋パイプスの建設などにより、少しずつ景観が変わりつつあります。この横島町の大幡付近に、室町時代には釣月庵という小さな寺がありました。

釣月庵は風光明媚な土地にあり、伏見の指月庵、宇治の蔵勝庵とともに、洛南の三名勝に数えられていました。江戸時代に刊行された地誌類や案内記にも多く紹介されています。たとえば『京師巡覧集』には、

春ハ閑花ニヨロシクテ、向ノ山ノ色フカク、夏ハ螢ノ飛カフテ岸辺ニ火ヲヤトモスラン、秋ハ流ノハヤキ瀬ニ、紅葉ヲクダスアケノ舟

また『都名所図会』には

此所四面渺々として、東に宇治川、西に巨椋の江あり、是故に月を愛するに無双の勝地なりと記しており、四季折々の美しさが見られるとともに、向かいの明星山の深緑と宇治川の清流は、まさに宇治の「山紫水明処」であっ

たといえるでしょう。

ところで、この釣月庵の住持は、祐乗道人という人です。室町幕府三代將軍の足利義満の信望の厚かった禅僧義堂周信は、当時足利家ゆかりの等持寺(等持院)の住持でしたが、三度の不審火があったことを理由に、僧録(禅寺統轄の職)の春屋妙葩に辞職の願を提出して、寺を出奔し、知人であった祐乗を訪ねています。永徳元年(弘和元年(一三八一))五月のことです。義堂は、祐乗のあたたかいもてなしとこの美しい風景で、きつと心を癒されたことでしょう。

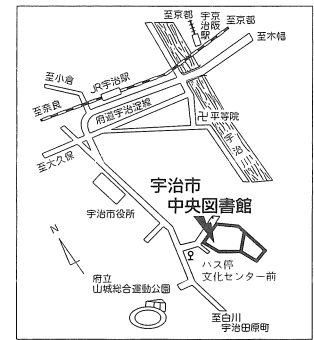
この釣月庵も江戸時代には史料から姿を消します。天正元年(一五七二)に起こった横島合戦で、何か関わりがあったのかもしれない。

十六世紀末、豊臣秀吉による横島堤の構築で、横島の景観は一変し、名勝地も失われます。横島の変貌はこの時から始まっていたのです。



釣月庵跡を伝えるあたり

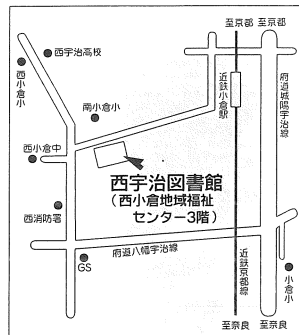
中央図書館



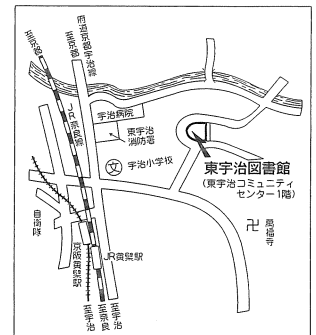
利用案内

- ・市内に在住、または市内に通勤・通学されている方なら、1人5冊3週間(そよかぜ号は約1ヵ月)本が借りられます。貸出券は全館共通です。
- ・図書館は9時から17時まで開館しています。休館日は毎週月曜日、毎月末日、祝日、年末年始です。

西宇治図書館



東宇治図書館



あとがき

いよいよ「読書の秋」到来ですね。今年(10月27日~11月9日)の標語は「いつも、ずっと読書週間」です。かばんの中に、ティブルの上に、ベッドのかたわらにと好きな所に本を置いて好きな時に読んでみませんか？

さて、今回の「としゃかん宇治」で、四こまマンガが登場したので、気がつかれたでしょうか？ なかなかかわいいキャラクターですよ？ 今後も続く予定です。どうぞ、おたのしみに!!

